



劳而無功(勞而無功)と天地成功(天地成功)

Noimugong and Cheonji-Seonggong

目次

- 1 研究背景と目的
- 2 核心概念の紹介
- 3 東学思想の勞而無功
- 4 大巡思想の天地成功
- 5 伝統的鬼神概念と勞而無功
- 6 東学と大巡の地界観の差異
- 7 日本観の対比
- 8 結論および示唆点

研究背景と目的

- 東学思想と大巡思想は韓国近代思想の土台をなす代表的思想であり、その「地」に対する観点(地観)は重要な相違点を示す
勞而無功(勞而無功)と天地成功(天地成功)は東学思想と大巡思想の地観(地観)において、その相違を鮮明に示す核心用語
- 二概念の比較を通じて韓国近代思想の地観の変化とその哲学的・歴史的意味を考察し、現代的意義を探索
-

「東学思想と大巡思想の地観(地観)においてその相違を鮮明に示す用語が勞而無功(勞而無功)と天地成功(天地成功)である。」

核心概念紹介 勞而無功と天地成功

- 東学思想と大巡思想の地觀(地觀)の差異を示す核心的用語

勞而無功(勞而無功)

- 「努力したが成功しなかった」という意味
- 天が神明としてのみ出現した東学思想で使
- 成功の事例がなかったことを
- 伝統的陰陽五行概念と対比される

天地成功(天地成功)

- 九天の人身降世以降の天地に対する表
- 天地が役割を分担して事を成す
- 地と天の陰陽合徳によって地上天国を実現
- 天主の成功を意味

「伝統的陰陽五行において天地成功と対比される用語は天地化育である。天門地方、天道地徳のような理想的三才概念において、天地は家門の成功のために子を育てる父母のように、人間を化育し天地を成功させようとする。」

東学思想の勞而無功(勞而無功)

- 勞而無功(勞而無功):努力したが成功しなかったという意味で、天外天が神明としてのみ出現した東学思想において自らの業績を説明した用語
- 東学では天主(天主)を鬼神(神明)として認識し、このような天主の努力はあったが成果はなかったという意味伝
- 統的陰陽五行における天地化育(天地化育)や天円地方(天圓地方)のような理想的概念と対比される
- 東学思想の勞而無功は大巡思想の天地成功を理解する関門となり、天地成功は地と天が陰陽合徳する地上天国を意味する

「東洋思想において「天円地方」のような天地に関する多くの用語があるにもかかわらず、天地成功に対する概念の端緒が現れる場は東学思想が唯一である。」

大巡思想の天地成功

- 天地成功(天地成功)九天の人身降世以降、天地の役割を分担し事を成す概念
- 大巡思想は抑陰尊陽(抑陰尊陽)を正陰正陽(正陰正陽)に変える天地公事を通じて伝統的な地観を実体化三神山
- から出発し、父母山である回文山と母岳山の整備、山王と海王の穴の整列
- 陰陽五行の中心である「土(土)」の重要性の強調－九天の役割が天地成功に重要

「天地陰陽合徳の結果である地上天国は、三界が相関的に作用する大巡思想の地界観を代表する。」

伝統的鬼神概念と勞而無功の意味

朱子学的鬼神概念

- 朱子:「鬼神に関わる事はもとより第二義的なものである。形もなく影もない鬼神は理解しがたい」
- 宋明理学において本体論的に「理(理)の体(體)」が無(無)であり虚(虚)として認識
- 鬼神論は日常的「事(事)」を習う小学段階ではなく、心をもって「理(理)」を窮究する大学段階の言説

東学の天外天と勞而無功

- 東学思想において鬼神は天外天(天外天)を意味し、天地を天主すなわち鬼神として悟る過程で勞而無功概念が登場
- 天外天が神明としてのみ出現した東学思想において、自らの業績を「勞而無功(勞而無功)」と説明
- 勞而無功は成功の事例がなかったという意味であり、これは後に大巡思想の天地成功を理解する関門となる

「東学思想において勞而無功は天地を天主、すなわち鬼神として悟る場面において現れるため、勞而無功を理解するには既存の東洋の鬼神概念を理解する必要がある。」

地界観および日本観の対比

地界観と地界観の比較

東学思想

- 地の生命思想を強調する形で理解
- ^{される}韓国有機農法との関連性
- 天中心の思想であり、地への強調は相対的に微弱

大巡思想

- 三神山と父母山(回文山、母岳山)の再整備
- 地界公事を通じた地気(地氣)の調整
- 地上天国の実現のための地気統一公事

日本観(日本観)比較

崔水雲(東学)

- 壬辰倭乱の時に侵略した仇とし
- ^{で認識}「犬のような倭賊め」と表現するほど敵
- ^{対的}祖先・震立の抗日武功に対する自負

甌山(大巡思想)

- 日本に対抗せず順従することを主張
- 朝鮮を日本に任せる公事を行う
- 日本の敗亡と「賃金も受け取れず帰るであろう」との予言

東学と大巡思想の地界観および日本観は、各思想の時代的背景と哲学的基盤に応じた相違を示しており、これは実践的側面における異なる接近として現れる

結論および示唆点

- 勞而無功と天地成功は、東学と大巡思想の世界観および実践の相違を最も鮮明に示す核心概念である
- 東学は人間の努力にもかかわらず成果がない「勞而無功」として、大巡は九天の人身降世以降、天地が共に成し遂げる「天地成功」として地観を表現
- 天地成功は既存の東洋思想の天門地方、天道地徳を超え、陰陽合徳と三界開闢を通じて地上天国を実現する概念として発展
- 現代の生態学的危機と物質文明の限界を前に、地界(地界)の再発見と調和的地上天国の意味を再照明する哲学的基盤を提供

研究の意義
勞而無功と天地成功の比較を通じて韓国近代宗教思想の地観(地観)変化を追跡し、現代韓国思想において地界(地界)の重要性を再確認する契機を用意